

News Letter

Southeast Asia Regional Network



- 1. 創設7周年企画
- 2. タイの昨今 (第18回)
- 3. 同窓生インタビューリレー
- 4. トコロ変わればザ★談会 (第11回)
- 5. 狙え! インスタ映え! (第14回)
- 6. ともに感じる東南アジア (第14回)



写真:オウギヤシというヤシの実の一種
パームシュガーやヤシ酒が作られる

1 創設7周年企画

♡ サソリの串焼き

カンボジアのマーケットにて
サソ리를串焼きにしたもの。見た目はサソリそのものです…。見た目が怖く、どうしてもチャレンジできませんでした。(駒形)

♡ アカアリ卵入りトムヤムスープ

タイ・イサーンの民家にて
通常のトムヤムスープの具として貴重なたんぱく源となるアカアリの卵が…! 一度口に入れたものの、やはり噛む勇気を絞り切れず、こっそりティッシュに包みました…。(大畑)

♡ 鶏の足、もみじのハーブスープ

タイ・バンコクのイサーン料理屋
ハーブのクリアスープにコラーゲンたっぷりの鶏の足がごっそり入っているスープ。スープの中でぷりぷりの質感があまりにもリアルで、隣で美味しそうにしゃぶつくタイ語の先生に冷たい視線を送ってしまった。(大宮)

事務局からのごあいさつ

みなさん、こんにちは!
タイは雨季にともない降水量が増え、水害のニュースが気になる季節になってきました。また日本も台風等で自然災害が懸念されるニュースが多くなるこの時期は、一段と水害の怖さを感じる季節でもあります。
さておかげさまで東南アジア支部も創設7年を迎えました。この日を迎えられたのもひとえにメンバーの絶え間ない協力のおかげだと感謝しています。
今後さらにネットワークを広げるべく、活動を続けていきたいと思っておりますので、今後とも応援の程よろしくお願いたします。

♡ 孵化直前のアヒルのゆで卵

カンボジア・シェムリアップにて
愛知万博で一緒に働いたカンボジア人スタッフに会いにシェムリアップを訪れた時、美味しいからと勧められた料理。見た目も匂いも受け付けずかなり嫌がったが、その嫌がる私の姿が現地の人からしたら面白かったようで、その場の勢いで一口か二口食べました。衝撃的で味は覚えていません。場が盛り上がりカンボジアの人が喜んでくれたので、良い思い出として残っています。(小沼)

これだけは食べられなかった 東南アジアの珍品!



♡ 虫のから揚げ各種

タイ・ラオンの屋台にて
パリパリの海老のようにものは大丈夫でしたが、食感ソフトなものはお手上げでした。ワイワイ騒ぎながら食べた楽しい思い出です。(原)

♡ 茹でた蚕

タイ・シーサケット
タイ語のボランティアで訪れた際、村の見学コースで提供された、茹でた蚕。口には入れてみました。噛んでみました。そこまでです。それ以上は私でも厳しかったので飲み込めませんでした。(佐々木)

2 タイの昨今 ~第18回~



時代に合わせ鉛と鞭の両刀使い

先日中2の息子の学校で遠足がありました。遠足といっても、日本のような観光地に行くようなものではなく公的機関の学習センターのような場所へ行きグループで調べ物をしたりと、どちらかというと課外学習というものに近いかもしれません。今回の行先は国立科学博物館。当日は、担任が学校での出発の様子からバスの中、現地での様子を写真に収め、保護者グループラインにて随時写真をアップしてくれるので、子供の様子がよくわかります。そこで私は、おそらく日本ではありえないだろうという写真に私はくぎ付けになりました。。。!

まず一つ目は、目的地までの道中のバスの中の様子。

先生が各座席ごとに撮られた写真を見ると、まあこれはなんてことでしょう!! どれもかしこもスマホ、タブレットにヘッドホンと、子供達フル装備ではありませんか! うちの子もタブレットを手にニコリ(ええ!?)。そして二つ目は、グループごとにみんなで昼食をとるその卓上には、ケンタッキー、スポンジケーキ、そしてまたまたスマホにタブレット! 息子も満悦で帰宅し、それはそれは楽しい課外学習だったようです。

息子の学校では、中学からスマホを学校に持ち込むことはできるものの、授業中は先生に預けなければ

なりません。ただしお昼休みや遠足、課外学習での移動時間となると、そこは授業とみなさないのか、自由に使うことができるようなのです。息子の学校は規律厳しい学校なのになぜスマホは緩いのか…?と考えてみたところ、確かにイベントや課外活動など子供たちが楽しく過ごす時間は子供たちに自由を与え、規則内でどう楽しむかは子供たちそれぞれの自由! という考え方があります。このご時世、スマホの取り扱いもその一つなのかもしれません。そんなタイ人の鉛と鞭の両刀使い、その柔軟性は見習うところもありそうですね。(大畑)

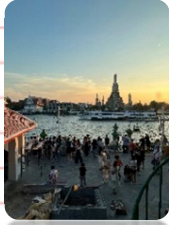


授業中は出席番号のポケットに自分のスマホを預ける

3 同窓生リレーインタビュー

Profile

柴田 友美子さん

Yumiko
Shibata

- 宮城県出身
- 国際社会学科
2006年入学
- 重田研究室

▶ 宇都宮大学国際学部を選んだ理由は？

中学校に授業の中で「地雷を踏んだらサヨウナラ」の映画を見て、カンボジアでの国際協力活動に興味を持ち、高校卒業後は国際関係を勉強できる大学に進学したいなとぼんやりと思い描いていました。当初頭の中はカンボジアでしたが、カンボジアにお近づきになるにはカンボジア語か・・・カンボジア語は外大か・・・敷居が高いし、ずっとそればかり勉強するのもなんだかなあと思っていた時に宇都宮大学を見つけました。カンボジア語ではないけど、その隣のタイの言葉を学べるようだし、とりあえず「関東にある都会の大学」に行きたい！（脳内のイメージ図：修学旅行で出かけた東京の街並み）受験時に、「次は宇都宮～」とのアナウンスの後、新幹線が減速した時に見た緑豊かな関東は想像とはかけ離れていましたが、それでも初めて自分で選んだ街での生活にウキウキしていたのを覚えています。

▶ 大学時代に没頭していたことや思い出は？

4年間の大学生活でしたが、実際に宇都宮で生活していたのは2年半でした。あとはタイのカセサート大学に交換留学（1年間）と、4年後期からは卒業単位が卒論以外足りていたため、在タイ日本大使館での在外公館派遣員勤務を開始していました。（卒論はメールで添削していただき、どうにか単位として認めていただきましたが、あれはかなり先生方に迷惑をおかけしました・・・）この経歴からもわかるように、常にタイが心のどこかにいて、タイ語を勉強したり、大学祭でタイ料理をタイと周辺国をバックパッカーしてみたりと大変楽しく過ごした大学生活でした。

▶ 大学卒業から現在までの道のりは？

在外公館派遣員制度で3年間大使館勤務した後に、全く違うことをしたくなり、服飾専門学校に入学、縁あって山梨県の繊維会社にて織物の生産管理や企画営業の補助をしました。東南アジアしか知らなかった私でしたが、パリやミラノの展示会などにも参加させてもらい、自分の世界がぐっと広がりました。その後、外務省での領事中途採用に合格し、結婚と産休育休を経て、現在在外公館勤務1か所目となります。

▶ 現在のお仕事のやりがいは？

私が勤務している在外公館は海外に長期在住されている日本人、短期旅行中の日本人に対する行政の窓口です。そして、トラブルの多い海外では思いも寄らないことがたくさん起こります。その際の相談窓口として私達が頼れる存在であるように、日本の制度やその国の状況を正確に把握し、ご案内できるように努めています。私達は法律に基づいた事務を行うことが最重要ではありますが、よくお話しを伺い、何が問題で私達は何ができるのか、できない場合でもどこに相談すれば良いのかというのを相手の身になって考えることを大切にしています。その結果、すごく感謝していただいたり、後日お手紙をいただいたりというのはやりがいにつながっています。

▶ 休日の過ごし方は？

わんぱくざかりの息子を帯同しているので、休日にはもっぱら子供と一緒に時間を過ごしています。この頃の息子は昆虫が大好きで、家ではカブトムシやクワガタをたくさん飼育して、休みのたびに都会のオアシスであるベンジャキティ公園の森林公園に虫取り網と虫かご片手に出かけています。（運動にもなって、お金もかからなくていい趣味です！）特に、雨季は昆虫採集に最適な季節なので、スコールに降られる前にささっと出かけて、蝶々やバッタ、トンボなどを息子と一緒に追いかけています。田んぼで捕まえたイナゴを佃煮にして食べるような田舎育ちで良かったなと思います。

現在在外公館にてご活躍の
柴田友美子さんにインタビューです！



日本にはなかなかいない巨大な蝶を発見！

▶ 今一番大切にしていることは？

まず第一に、日々成長していく息子との時間を大切にしています。平日昼間に一緒にいられない分、限られた時間の中でいかに息子と深く向き合うかに重点を置いています。子どもの目線で世界がどのように見えるのか、よりワクワク生きていけるためにはどんなヒントをあげたらいいのか、じっくり観察しています。これからうまい具合に子離れできるのか、不安ではありますが、ほどよい距離で伴走できるように今から心がけていかなくてはと思っています。また、仕事上では、制度や法律、語学についての勉強を続けることで仕事の精度が上がると思うので、日々の忙しさに飲み込まれずに頑張りたいと思っています。

▶ 今後の抱負も踏まえ、みなさんへメッセージを！

留学時代を含めるとタイでの生活は7年を超え、過ごしやすいタイでキャリアと子育ての両立ができていることは本当にありがたいことだなと思っています。大学生活は少し早足で通り過ぎてしまいましたが、宇都宮大学でタイと出会い、その縁を深めたことで、今の自分があるということを日々実感しています。今後はタイ以外の国にも赴任することになりますが、皆様のご活躍の様子を様々な折で拝見できることを楽しみにしています！

トコロ変わればザ★談会 第11回のお題は、こちら！

あなたの目線であなたの住む地域の
健康志向度合を教えてください！



市民の健康志向度合は？

何を今更ですが、バンコクは大都市です。スカイトレインからアクセスの良いフィットネスも増え、出勤前後に通う習慣は、田舎育ちの私からすれば、なんとアーバンな生活だろうと感じています。一方、サバーイ（快適）が大好きなタイの皆様は、すぐにバイクタクシーで移動する習慣も。以前SNSでは、フィットネスに行くために、バイクタクシーで移動する若者達が話題？に。自分の足で移動すれば、いい運動になるのに、都会の生活はなんとも忙しいですね。

地場特有・流行りの健康食は？

乾季は大気汚染による呼吸器炎症、雨季はウイルス性の流行り風邪など、常夏の国なのに体調を崩すことも多いです。日本では夏風邪など、引いたこともなかったのに。体調不良を同僚に話すと、喉のイガイガにはこれ、咳止めにはこれと、次々にタイハーブや中国漢方由来の粉末を譲ってくれ、東洋医学の底力を感じます。効果があるかは、分かりません。（笑）

流行りの健康アクティビティは？

パリ五輪でタイ男子バドミントン初めての銀メダルを獲得したクンラウト選手（愛称ウィウ君）は、その礼儀の正しさも相まって、一躍大スターになりました。元々、バドミントンは市民に身近なスポーツで、友人と集まってバドミントンをする機会も多いようです。今後もウィウ君の活躍と共に、タイのバドミントン人気も益々高まりそうです！

香港の人の健康志向はかなり高いように感じます。食材もオーガニックのものを高くても選んで購入する人が多いですし、海岸沿いをジョギングする人も散歩の邪魔になるくらい多いです。そもそも日常的にほとんどの人がスニーカーを履いています。男性も女性もスニーカーで出勤します。

食の面ではやはり漢方、薬膳の考え方が強いです。とにかくみんなこの食材は身体を冷やすとか、身体を温めるとかよく知っています。そしてこんな時にはこれを食べないとかいう話をよくします。最も身近な漢方と言えば街なかの涼茶舗でしょう。体の状態に合わせていろいろな漢方茶を飲むことができます。涼茶は今でも香港の人たちには大切な健康食です。

世界有数の人口密度を誇る香港ですが、人が住んでいるのは狭い海辺の帯のみ。海辺の傾斜地に二ヨキ二ヨキと建ち並ぶ高層アパートの背後には広大な山が広がっているのです。その多くがトレイルコースとして整備され市民たちに利用されています。週末に地下鉄に乗るとトレッカー用のタイツやシューズを履いた人をよく見かけます。

ここ10年で人々の健康に対する意識が高くなってきました。特に食べ物に対しての健康思考が以前よりも重要視され農薬不使用、有機栽培、グルテンフリーなどを専門に扱う自然食店が増え目につく振っています。

コロナ後、発酵食品が注目されたことから韓国キムチが流行るようになりました。今では自家製で作る人も。反面、チェコではこれを食べると健康になると言うコンセプトよりも食べ物に農薬がかかっていない、肉にケミカルな要素が含まれていないなどの点を重視することが多いです。

昔も今も散歩です。チェコ人のお友達に散歩に行こうと誘われたら5km以上歩くのは普通です。ひたすら歩いておしゃべりをする、心身共に健康的なチェコ人の秘訣かもしれません。そして次にジョギング。老若男女、そしてお犬様と共に、と手軽で人気の健康アクティビティです。ただ走るだけではなく、乳母車を押しながら、犬と一緒に、などスタイルも様々です。

東南アジアへの想いを共に発信していく仲間（国際学部・院同窓生）を募集しています！

宇都宮大学国際学部・国際学研究科同窓会東南アジア支部は、同窓会本部承認のもと2017年8月に創設されました。東南アジアをこよなく愛する同窓生のネットワーク再構築を目指し、2017年9月よりニュースレターを年2回（4月・9月）発行しています。国際学部で東南アジア愛を培った同窓生のみならずともつながり、ネットワークを広げいっしょに活動を続けていきます。このニュースレターが一人でも多くの同窓生に届き、さらに東南アジア愛を通じてネットワークが広がっていくことを願っています。

東南アジア域内在住同窓生・元留学生・東南アジア域外在住で東南アジアに関わりたい、関わっていききたい同窓生興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ事務局兼ニュースレター編集係までご連絡ください。

数多くの同窓生からの声をお待ちしています！ 事務局：大畑 (miyukiohata@gmail.com)

- 現メンバー（16名）▶大畑美優紀 95・マリー/藤田研▶田邊知成 96・小池研▶ROMANOV(當眞) 里絵 96・佐々木(史)研▶栗林(泊) 祥子 96・梅木研▶平田勝博 97・友松研▶本間みずほ 97・田巻研▶原理恵 98・藤田研▶谷澤 壮一郎 02・石濱研▶大宮 真樹 06・マリー研▶知念(高田) 知佳 00・田巻研▶諸頭(岩山) 晴奈 05・阪本研▶小沼 洋子 97・藤田研▶藤井満春 00・友松研▶佐々木哲夫 99・藤田/中村(祐)研▶駒形麻朋実 17・田巻研▶柴田(佐々木) 友美子 06・重田研 (※数字は入学年度)

狙え インスタ映え!?

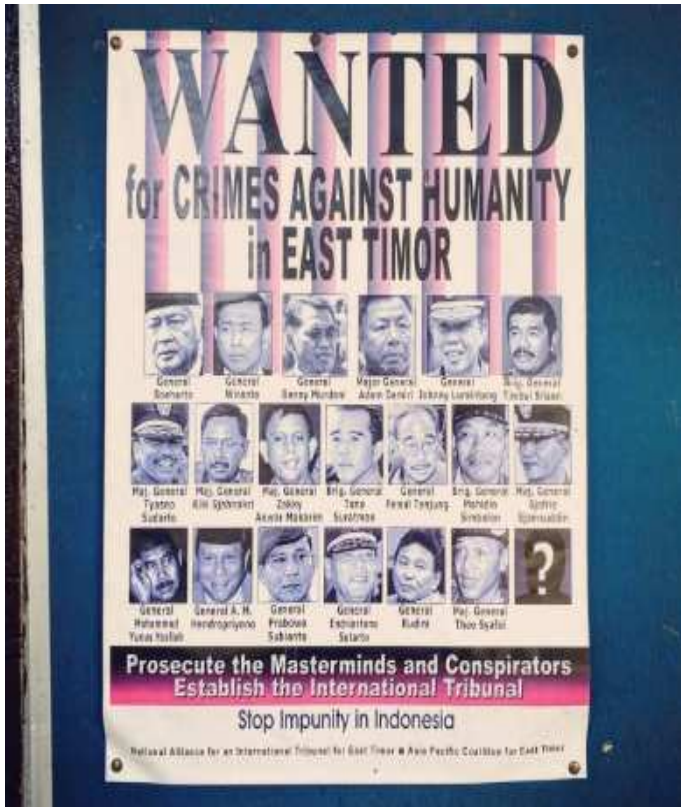
Instagram

ログイン | 登録



tanizawasoichiro · フォローする

...



『次期大統領はWANTED』

皆様こんにちは。TVディレクターの谷澤です。

インドネシアと豪州の間にある東ティモールという国に行かれたことのある方はそれほど多くはないでしょう。今から四半世紀前(1999年)に、当時支配していたインドネシアからの独立を住民投票で選択、2002年に“アジアで最も若い国”として正式に独立国家となりました。

それから20余年。番組ロケで訪れた首都ディリのNGO事務所には、今もこのような“指名手配”写真が掲げられていました。

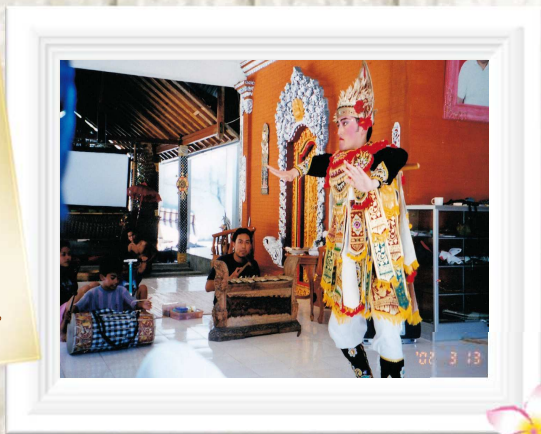
「人道に対する罪”を犯した者たちを、国際法廷で裁け」。

インドネシアの併合・統治によって、当時の人口の4人に1人が死に追いやられたと言われる東ティモール。その責任を問われるべきだとして、インドネシア軍の幹部連中の顔が並んでいるのです。この間には、国軍兵士らが数千人の東ティモールの子どもたちを強制的にインドネシアに連れ去った、いわゆる“盗まれた子どもたち”をめぐる問題も発生。しかし、被害者は今もインドネシア各地に点在したまま、母国に戻ることはできていません。

加害者は事実を一方向的に忘却し、被害者はこれを決して忘れない。東ティモールの人々の抱える深い傷は、今も疼いているのではないか。奇しくもこの“指名手配犯”の中には、若き日のプラボウォ次期大統領も含まれています。“映え”とは程遠い、慄然とする現実がそこにありました。###

(谷澤壮一郎/インドネシア在住)

大学3年の春休み、タイのシーサケットへ行く前に国社同期とバリ島へ行き、ウブドでバリ舞踊を習いました。見た目と違い、足腰を中心に体全体を使う踊りなので、毎日が筋肉痛との戦いでした。レッスン期間最後には衣装を着て、師匠が奏でる音楽に合わせて踊りました。こちらはゲストハウスも経営されており、私たちはそちらに宿泊していたので、買い物や食事にも連れて行ってくれたり、家族同様に交流を深めることができました。



インドネシア・バリ島ウブドにて
二〇〇二年

佐々木 哲夫

装いを
変えてバリスに
流す汗

第十四回 ともに感じる東南アジア